

令和6年度

# 吉野川市立鴨島第一中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒の主体的活動を促進し、目標達成の達成感を実感させる指導方法の工夫
- 生徒が自己の課題に向き合い、適切で具体的な目標を設定したり、他者と協働したりできる授業の実践

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
田中 直美	学校長:住友 久之 教頭:遠藤比呂誌 小泉 博嗣 1学年主任:仙田 継治 2学年主任:川端恵理子 3学年主任:天羽 善久 研修主任:三栖 千晶

校長

住友 久之

### 【各校の取組状況の把握について】

授業参観や職員アンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多い。漢字・計算・英単語など毎日の課題にまじめに取り組んでいる生徒がほとんどである。 ●一問一答形式に比べ、記述式問題を苦手とする生徒の割合が高い。長い文章を正確に読み取ったり、既習の知識・技能を活用したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能が定着している。 ・既習の基礎的・基本的な知識・技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。	・朝学習や宿題で小ステップの学習を積み重ね、繰り返し学習する習慣を身に付けさせる。 ・既習の知識と関連付けたり、組み合わせたりするなど、学習内容の精選に努める。 ・各教科のポイントを示した「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布する。	・二者面談や三者面談を通して、家庭学習カウンセリングを実施し、個に応じた家庭学習の内容や取り組み方を示す。	・2月実施のアンケート調査で、79%の教員が「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている」と回答した。既習内容を「他の学習や生活の中で活用している」は64%にとどまった。 ・「家庭学習の手引き」を個人懇談で配布し、保護者と家庭学習について話し合う機会を設けた。 ・学校評価アンケートでは、87%の生徒が「学校は適切な量の宿題を出し、家庭学習が続くように指導している」と肯定的な回答をした。	・基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、朝学習や家庭学習で小ステップの学習を積み重ね、繰り返し取り組む習慣を身に付けさせる。 ・既習内容の復習や活用等、学習内容の精選に努める。 ・定期的に学習実態調査を行い、生徒に家庭学習時間を振り返らせる。

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○少人数であれば、話し合いや発表を通じて自分の考えを表現できる生徒が多い。他の生徒の意見をしっかりと聞くことができる。 ●クラス全体など大きな集団の中で発表することに苦手意識をもっている生徒は少ない。目的や課題に応じて必要な情報を整理してまとめたり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりすることに課題がある。	・目的や課題に応じて必要な情報を多様な方法で収集・選択し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、書いたりして表現することができる。 ・自分の考えを明確にもち、他者と伝え合う活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりできる。	・図書や1人1台端末を活用して必要な情報を収集・選択し、言語化してまとめる学習の場面を増やす。 ・ペア学習やグループ学習を全教科で取り入れ、考えを共有したり、生徒同士で教え合ったりする場面を設定する。 ・学校図書館や市立図書館の貸し出し図書の利用を呼びかける。	・県学力向上確認プリントを活用し、思考力や表現力を養う。 ・「徳島版読解力」育成を意識した学習場面を設定する。	・2月実施のアンケート調査で、82%の教員が「自分の考えをまとめることができている」と回答した。一方、「目的に応じて必要な情報を収集できている」は64%にとどまった。 ・2月実施のアンケート調査では、ペア学習やグループ学習を肯定的に捉えている生徒の割合は91%と高かった。考えを共有したり、教え合ったりすることで、理解が深まったという意見が多く聞かれた。	・必要な情報を選択し、言語化してまとめ、1人1台端末の利用等により共有して学びを深める場面を増やす。 ・「徳島版読解力」育成のために、学習方法・ツールの工夫に全教科で取り組む。 ・全校読書週間を設定し、読書に親しむ機会を増やす。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守り、一生懸命授業に取り組むことができる生徒が多い。家庭学習に取り組むこと、与えられた課題を期限までに仕上げようとしている。 ●自分で目標を設定したり、課題解決に向けて自分で考えて学習に取り組んだりすることが苦手である。難しいことにも失敗を恐れないで挑戦することに課題がある。	・学習状況を振り返り、自分で課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むことができる。 ・難しいことにも粘り強く挑戦することで、学ぶことの楽しさや課題を解決した達成感を味わい、次の目標設定につなげることができる。	・「今日のゴール・まとめ」カードを活用して生徒に学習の見通しをもたせたり、学習成果を実感できるように振り返りの場を工夫したりして、達成感を味わわせる。 ・各種検定の挑戦等、自ら目標を設定して粘り強く課題に取り組む意義を伝える。 ・小さな成功体験を積み重ねる場を増やす。肯定的な声かけを通して、自信を深めさせる。	・1人1台端末を活用し、探究的な学習の場面を設定する。 ・教員間で授業構想やアイデアを共有し、授業改善に取り組む。	・英語検定に延べ142名、漢字検定に延べ58名が挑戦した。三者面談での案内等により、昨年度より受検者が計20名増えた。 ・1人1台端末の効果的な活用に課題がある。 ・校内オープンクラスを11月5日～11月22日に設定し、全教員が他教員の授業を参観した。振り返りシートを用いて質問や助言を行い、授業改善に取り組んだ。	・各種検定の挑戦等、自ら設定した目標に向けて粘り強く取り組める生徒を育成するために、三者面談等で呼びかける。 ・1人1台端末の効果的な活用方法を模索する。 ・校内研修等を通して、教員間で授業構想やアイデアを共有し、生徒が主体的に学べる授業づくりに努める。

## 令和6年度 学力向上ロードマップ

